

玉川の歴史

えだいらいせき

江平遺跡 — 時を超えた天平人の記憶 木簡 —

江平遺跡は、阿武隈川右岸に位置しており、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が多数発見されました。円墳を中心とした31基の古墳のほかに、古墳時代および奈良・平安時代の住居跡合わせて74軒、奈良・平安時代の建物跡98棟などがみつかっています。

特に、天平十五（743）年と墨書きされた木簡が出土しており、「続日本紀」の内容を証明する貴重な資料となっています。また、木簡の出土したすぐ近くからは、竹製の横笛もみつかったっており、年代が明確なものとしては、日本最古と思われるとても貴重なものとなっています。

木簡には、聖武天皇が最勝王経の読経を命じたことを受けて、江平遺跡周辺に居住していた人が最勝王経と大般若経をたくさん読経したという内容が記されています。



川辺宮ノ前古墳 【県指定史跡】

かわべみやのまえこふん

古墳時代後期の古墳で、墳丘はすでに原形を留めていませんが、横穴式石室の一部が残っています。

石室内部は極めて精巧な切石によって構成され、当時すでに権力者がいたことを物語っています。



石造五輪塔 【国重要文化財指定】

せきぞうごりんとう



昭和13年に国の重要文化財に指定された五輪塔は、藤原時代末に領主源基光の墓として建立された石塔婆で、日本の石造工芸史上、また仏教美術史上でも非常に評価の高い貴重な財産として巖峯寺参道の覆堂に安置されています。

東福寺舍利石塔【国史跡指定】

とうふくじしゃりせきとう



東福寺境内（南須釜字久保宿）にある舍利石塔。元久二年（1205年）乙丑・当地の開山和尚の舍利が安置されており、鎌倉時代の弥勒浄土往生の思想を表現したものです。

宥音聖人堂

ゆうおんしょうにんどう

1575年創立の宥音聖人堂は、通称「山小屋の聖人様」といわれ、言い伝えでは「宥音」という名僧が、山頂に穴を掘り、干し柿一連を持って、穴に入り「無病息災、安産」を祈願し、鐘を鳴らし読経を続けること1000日、仏様になったとのこと。

安産の守護神として近郷近在から多くの信者が参拝に訪れます。

4月の第2日曜日が祭礼日となっています。



川辺八幡神社本殿【県重要文化財指定】

かわべはちまんじんじやほんでん

江戸時代初期の建造物で、平成5年〜7年にわたり、県重要文化財として修復工事が行われた本殿は、永くこの地を治めていた石川氏の氏神として、広く信仰を集め崇められてきた由緒ある古社です。



現在は、保存のために瑞垣で囲まれているが、屋根を支える端正で見事な桁の彫刻などは、見るものを圧巻する美しさです。主材に頑丈な栗の木を使い、建築様式は太い木割りを用いた豪壮な江戸初期の造りで、寛文・享保などの改造を経て今日に至っていることが現存する6枚の棟札から伺え、「奉棟札正八幡宮武運長久祈慶長四巳亥十月」の棟札写しからみて、慶長年間の建立ではないかと推察されています。

また、内陣天井裏に南北朝期の貴重な古文書が秘蔵されていたり、源頼朝の大蛇退治を加護した伝説など、歴史浪漫を感じさせる話が残っています。

